

広島市東区におけるツツドリによるセンダイムシクイとオオルリへの托卵

吉見良一¹⁾・和田保雄²⁾・伊東進也³⁾・久保正幸⁴⁾・上野吉雄⁵⁾*

¹⁾ 広島市安佐北区可部・²⁾ 広島市南区祇園・³⁾ 広島市南区堀越・⁴⁾ 日本野鳥の会広島県支部・

⁵⁾ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会

Brood Parasitism by the Oriental Cuckoo *Cuculus optatus* on the Eastern Crowned Leaf Warbler *Phylloscopus coronatus* and Blue-and-white Flycatcher *Cyanoptila cyanomelana* at Higashi-ward, Hiroshima-city

Ryoichi YOSHIMI, Yasuo WADA, Sinnya ITHO, Masayuki KUBO and Yoshio UENO

報告

ツツドリ *Cuculus optatus* は北海道、本州、四国、九州に夏鳥として渡来し繁殖する。センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus*, メボソムシクイ *P. xanthodryas*, ヤブサメ *Urosphena squameiceps*, キビタキ *Ficedula narcissina* などに托卵する (樋口 1997, 日本鳥学会 2012)。県内では 1994 年 8 月 26 日に北広島町の臥竜山でウグイスへの托卵が確認されている (上野ほか 1996)。また, 1980 年 6 月 16 日に臥竜山でキビタキの巣にいるヒナが確認されている (日本野鳥の会広島県支部 2002)。

広島市東区において 2018 年 5 月 26 日にツツドリによるセンダイムシクイとオオルリ *Cyanoptila cyanomelana* への托卵を確認したので報告する。

今回, ツツドリの繁殖が確認された広島県緑化センター・県立広島緑化植物公園 (34°25'N, 132°34'E, 440m) は広島県南西部に位置している。植生は高木層としてアラカシ *Quercus glauca*, シラカシ *Q. myrsinaefolia*, コナラ *Q. serrata*, ヤマザクラ *Prunus jamasakura* などが優占し, 低木層ではアセビ *Pieris japonica*, ヒサカキ *Eurya japonica*, コバノミツバツツジ *Rhododendron reticulatum* などが, 林床にはヤブコウジ *Ardisia japonica* などが見られる。哺乳類ではホンシュウジカ *Cervus nippon centralis*, ニホンイノシシ *Sus scrofa leucomystax*, ホンドテン *Martes melampus melampus*, チョウセンイタチ *Mustela sibirica coreana* などが生息し, 特に, ニホンジカの密度が高く, 林床が開けている。鳥類ではオオルリ, キビタキ, ヤブサメ, クロツグミ *Turdus cardis*, コサメビタキ *Muscicapa dauurica*, サンコウチョウ *Terpsiphne atrocaudata* などが繁殖している。

ツツドリが托卵したセンダイムシクイの巣は, 標高約 440m の北側山麓部にあり, 林道わきの法面の地上約 180cm の窪みに造られていた。巣は外径約 12cm, 巣の出入り口約 6cm のドーム型で, 外側は細根や蘚類などで作られ, 産座にはリゾモルファや羽毛が敷かれていた。巣内にはふ化後約 7~10 日とみられるツツドリのヒナがいた。ヒナは黒色の羽毛が伸び始め, 巣からはみ出すほどの大きさに育っていた (図版 1-B)。センダイムシクイが小型の鱗翅類やその幼虫, ガガンボ, クモ類などを給餌していた (図版 1-C)。その後, 3 度にわたりアオダイショウ *Elaphe climacophora* が巣のそばに近づいたあと, 5 月 28 日の夜間に恐らくチョウセンイタチにより捕食された。

オオルリの巣へのツツドリの托卵は 6 月 14 日に確認したが, オオルリは巣のそばに現れず, ツツドリの托卵により巣を放棄したようである。巣は林道沿いの斜面の真砂土の地上約 70cm, 縦横約 15cm の窪みに造られていた (図版 1-E)。ツツドリの卵は長径 20mm, 短径 16mm で, 地色は淡い褐色で濃い褐色の小斑があり, 特に鈍端付近に環状に散在していた (図版 1-F)。オオルリの卵は 2 卵あり, 白色で長径 21mm, 短径 15.5mm でツツドリの卵より, 長径が 1mm 大きかった (図版 1-F)。本州のツツドリは主としてムシクイ類に托卵するため, ムシクイ類の小さな

卵に応じて小さめの卵を産むことが知られている(樋口 1997). 今回確認されたツツドリの卵も長径20mmであり, 長径平均 22mm のホトトギス *Cuculus poliocephalus* の卵よりも小さかった.

引用文献

- 樋口広芳 (1997) ツツドリ. 日本動物大百科 鳥類: 27. 平凡社
日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第 7 版. 日本鳥学会
日本野鳥の会広島県支部 (2002) ツツドリ. ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版: 132. 中国新聞社
上野吉雄・保井 浩・山本 裕 (1996) 広島県芸北町の鳥類. 高原の自然史 1: 291-393



A : センダイムシクイ
B : ツツドリのヒナ
C : ツツドリのヒナに給餌するセンダイムシクイ
D : オオルリのオス
E : オオルリの巣
F : オオルリの巣に托卵されたツツドリの卵 (褐色の卵)

2018年5月26日
2018年5月26日
2018年5月26日
2018年6月10日
2018年6月16日
2018年6月16日